

ふれあい つながり かわら版

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120

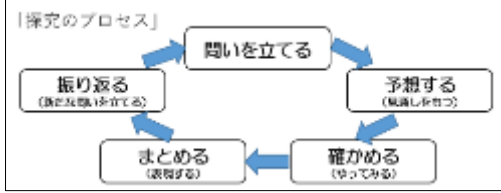


「探究し続ける児童生徒の育成」

「探究のプロセス」を大切にする白鷺小中学校

白鷺小中学校では、「探究し続ける児童生徒」を「目指す子供像」に設定しています。子供たちが生涯にわたって問題解決をしたり、自分の思いや願いを実現したりするためには、探究し続ける力の育成が重要であると考えています。

下図のような、「①問いを立てる②予想する③確かめる④まとめる⑤振り返る」を一連のサイクルとする「探究のプロセス」を、**教師と児童生徒**の双方が大切にすることで、「目指す子供像」の具現化を図っています。



教師 「探究のプロセス」を取り入れた授業改善

白鷺小中学校では、指導案にも「探究のプロセス」を明記して、授業改善に取り組んでいます。さらなる授業改善に向けて、十月十三日に、國學院大學教授の田村学先生を講師に招いて校内研修を行い、その様子をオンラインで公開しました。6年社会科「戦国の世の統一」の授業では、信長が急速に領地を拡大できた理由について、自分が考えた予想に基づいて資料を活用して確かめ、話し合う中で、武器の調達やキリ

シタン大名との協力など、資料から読み取った知識を結び付けて考える児童の姿がありました。

事後検討会では、子供の具体的な姿をもとに、子供が探究に向かっていたかどうかを各教科部会の先生方が熱心に話し合い、共有していました。田村先生には、探究に向かう授業改善のポイントを以下のように示していただきました。



事後検討会の様子

- ・ 中心概念をクリーンに描き、子供たちの力でたどりつけるような展開を目指す。
- ・ 自分たちの考えを出し合い、出てきたアイデアを黒板で整理し、共有できる場面を設定する。
- ・ 授業の中盤で時間を使うように、導入はコンバクトにする。(要約)

パネルディスカッションでは、「探究に協働的な学びは不可欠か。」「良質な問いとはどんな問いか。」など興味深い話題について、校長先生をはじめ、研究推進、特別支援教育、学級経営、部活動の立場から、登壇者自身の実践を踏まえながら意見が述べられ、以下の知見が得られました。

- ・ 探究は、状況の中から必要な情報を取り出し、解釈、熟考して表現することが求められるこれからの教育において必要不可欠である。
- ・ 考えを広げたり、整理したりできるなど様々な影響が生まれることから、探究の充実には協働は不可欠である。
- ・ 探究における「問い」は、子供の思いや願いとつながっていることが重要である。教師が問いを与える場合でも、子供にとって意味がある「問い」になっているか常に問い続けなければならぬ。

児童生徒 「探究のプロセス」を取り入れた「探究下敷き」

児童生徒自身が「探究のプロセス」を意識して学習に取り組めるよう、白鷺小中学校ではジュニア(1~4年)、ミドル(5~7年)、シニア(8~9年)の発達段階に応じた「探究下敷き」を作成し、配布しました。

この下敷きのねらいは、探究のためのガイドブックになることです。下敷きとして常に手元に置きながら「探究のプロセス」を確認できるため、自分の探究の見通しをもったり、活動のヒントを得たりすることができま

す。また、持ち運びができることから、学校外の学習にも活用できます。家庭で行う自主学習での活用が可能であり、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えた取組でもあります。

このように、教師による授業改善と児童生徒の「探究下敷き」の活用を通じて、白鷺小中学校では生涯にわたって探究し続ける力の育成を図っています。



事後検討会の様子



パネルディスカッションの様子

「探究下敷き」(8・9年生用)
白鷺小中学校から各学校にも
1組ずつ提供されています